

市民記者が行く！ 広報サポーターレポート



未来へ受け継ぎたい一色の祭り行事



広報サポーター
神原稔さん(一色町)

一色町の祭りといえば、8月に一色諏訪神社で行われる大提灯まつりが思い浮かびますが、ほかにも祭りはたくさんありま



赤羽木遣太鼓保存会の木遣と打ち込み太鼓

す。今回はその中から特色のある祭り行事を、神社と併せて3つ紹介します。

赤羽にある若一神社には、若一王子、伊邪那美神、速玉之男神、事解之男神が祭られています。大晦日の午後11時45分。初詣が始まる前に、赤羽木遣太鼓保存会の皆さんが拜殿前で木遣の音頭に合わせ、約20kgのバレン(まとい)を振り、勇壮な奉納を行います。そして、午前0時になり新年を迎えると、打ち込み太鼓の打ち始めを合図に初詣が始まります。

佐久島にある八剣神社・神明社合殿は、県有形文化財に指定されていて、熱田大神と天照大神が祭られています。毎年1月8日には、市無形民俗文化財に指定されている八剣神社八日講祭が行われます。神社に秘伝書として厳重に保管されている『氷岐女鳴弦伝』には「夫、氷岐女は神代の遺風にして陽神を増長し陰邪を退散し、己を直し人を正し、

妖怪を避け障擬を壊し手に弓箭を執り術は虚を的として心は実を射る：」と記されています。

八日講祭はこれらの形を取り入れて、邪悪を退散させる祭りとされています。神衣御覽の儀(裵を捧げて拜礼)、歩射の儀(弓矢を拜礼して拜殿から鬼張萩を矢で射る)などの儀式が行われますが、非常に難しい所作で行われ、古代をしのばせます。クライマックスは、「鬼」と書かれた鬼張萩(八角形のたこ)を射る鳴弦式です。2人の役男が「天筆和合楽」「地福開円満」と唱えた後に、弓で矢を放ちます。参列者は矢で射られた鬼張萩を奪い合い、骨組みを取って家に持ち帰り、年中の災難除けとします。



毎年1月8日に佐久島で行われる八日講祭(上段)
松木島ちりから囃子保存会によるちりから囃子(下段)

ちりから囃子、獅子舞などが奉納されます。中でも、ちりから囃子は、一色町では松木島だけの伝統芸能です。つり太鼓や大皮太鼓、笛、三味線、鼓などの音頭に合わせ、若い衆が身振り手振りを付けて、面白く太鼓を打ち鳴らします。公民館などの催しでも披露され、松木島ちりから囃子保存会が守り伝えていきます。

広報サポーターは公募により選ばれた市民記者です。これからも市民の目線で市内各地のイベントなどを取材していただきます。